開講科目名	自然環境科学特論Ｄ		
担当教員	遠藤　崇浩、辻野　亮、勝山　正則、鞍田　崇	開講区分	単位数
		集中	1単位

授業のテーマと目標

最近、テレビ・新聞などで毎日のように環境に関する話題が取り上げられている。普通一般に環境問題と称されるものは、全くの自然現象というよりも、我々人間にその原因の一部あるいは大部分がある。この意味で、環境問題を考える場合、人間が環境にどう働きかけ、それによって人間あるいは周りの動植物がどのような影響を受け、そしてさらにその影響に対してどう対応していくのか、という視点が非常に大切になる。これは「人間と自然の相互作用環」と言うことができる。この授業ではそうした人間と自然のやりとりを、「森、水、生き物、人」をキーワードに、豊富な事例を踏まえつつ説明する。具体的には、水に関わる森林の機能、生物の多様性が人間社会にもたらす恩恵、環境配慮型のライスタイルの構築、水管理の制度デザイン、といったトピックを扱う。

　この授業はオムニバス方式であり、講師のバックグラウンドも森林水文学、森林生態学、哲学、政治学と実に様々である。環境問題といっても、その中身は色々であり、それに対する研究アプローチも実に多種多様である。この授業では、こうした幅広い分野から話題を提供することで、環境問題の複雑さ、興味深さをお伝えできればと思う。

授業の概要と計画

I 森林に降った雨はどうなるのか? -森と水、人の関わり-(担当:勝山正則)
・世界および日本の水循環について概説する。
・特に森林と水・人間との関係に着目し、日本人は歴史的に森林とどのように関わってきたかを示す。
・さらに、近年の環境問題への対策として森林にかけられている期待(森林の公益的機能)について、特に水に関わる諸問題(CO2吸収・土砂災害・水源涵養)との関係から見る。

II. 多様性は生き物をどう支えているのか（担当：辻野亮）
・生物多様性と生き物同士のさまざまな関係を概観する.
・さらに人間に不可欠なサービスを提供している自然生態系と人間の関係にも注目する.
・授業で取り上げる事柄は，１）生物多様性の意味，２）生態系のしくみ，３）保護と保全

III. 住むということ：ライフスタイルとしての環境問題（担当：鞍田崇）
・グローバルな地球環境問題とミクロレベルの日常生活との相関性を明らかする。
・その上で、ロハスブームに代表されるような、環境配慮型の生活様式実現への昨今の試みの意義を文化批判的視点から検討する。
・さらに、わが国の民芸運動をはじめ近代以降の類似事例を参考にしつつ、現代のライフスタイルデザイン論について概説し、そもそも生活様式を問い直すとはいかなる思想的意味をもつのか考える。

IV. 地上の水と地下の水：まとめて管理？それとも個別に管理？（担当：遠藤崇浩）
・水循環が人間社会にとってもつ意味を考える。
・地表水のルールと地下水のルールについて説明する。
・自然の単位として一つのまとまりを見せる地表水と地下水を、法によって人為的に区分すると、どのようなことが起こるか事例をまじえて検討する。

成績評価方法と基準

4人の講師がそれぞれ担当の回において提示した課題の中から1つ選択し、それに関するレポートを提出してもらう。授業の評価は提出されたレポートによって行い、それを唯一の基準とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

9：00-17：00　勝山正則（katsu@chikyu.ac.jp）、辻野亮（turi@chikyu.ac.jp）、鞍田崇（kurata@chikyu.ac.jp）、遠藤崇浩（endo@chikyu.ac.jp）

学生へのメッセージ

人間と自然環境との関係を、森、水、生き物、人といったキーワードを中心として、肩肘張らないように講義する。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

授業において資料を配布する